薬学部

Faculty of Pharmaceutical Sciences

・薬学科

FUKUOKA UNIVERSITY

FUKUOKA UNIVERSITY FACULTY GUIDEBOOK

福岡大学

学部ガイド2026

FUKUOKA UNIVERSITY

入学センター

〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19番1号

TEL：092-871-6631（代）

薬学部
ウェブサイト

キャンパス
マップ

Responsibility

人の命に関わるという責任
薬を管理・説明し、薬の相談に乗る

薬学部からのお知らせ

クリニカルファーマシスト養成プログラム「がん薬物治療学コース」に続く「感染症薬物治療学コース」2025年春スタート！

- がんおよび感染症薬物療法に関する実践的な知識を有し、薬剤師免許取得後、早期に活躍できる臨床薬剤師の養成を目指すコースです。
- このプログラムでは、薬学科で通常履修する科目に加え、医療現場に則した特徴的ながんおよび感染症関連科目を開講し、プログラム修了生の中からがんおよび感染症分野の専門・認定薬剤師を数多く輩出することを目標としています。

※本コースを修了しても、専門・認定薬剤師になるには一定期間の実務経験が必要です。

※本冊子に掲載している人物の情報は、2024年度取材時のものです。

高校生・保護者様用 薬学部公式LINE アカウント開設！

薬学部の最新情報を配信中

お友達登録をお願いします

学部長メッセージ

時代のニーズに応える次世代薬剤師育成
～福岡大学薬学部の「クリニカルファーマシスト養成プログラム」

薬学部長　松末 公彦 MATSUSUE Kimihiko

近年、医療の高度化・専門化が進む中で、患者さまに最適な薬物療法を提供するためには、薬剤師一人一人が専門性を高め、医療チームの中で確かな存在感を示すことが求められています。そのためには、他の薬剤師との差別化を図り、独自性のあるスキルを身に付けることが重要です。福岡大学薬学部では、強みを備えた薬剤師を育成するため、「クリニカルファーマシスト養成プログラム」を開講しました。

本プログラムには、最新のがん治療に不可欠な薬物療法を深く学ぶ「がん薬物治療学コース」に加え、2025年度からは「感染症薬物治療学コース」も設置します。コロナ禍で改めて認識した感染症の脅威に対応するため、エビデンスに基づいた適切な感染症治療を実践できる薬剤師を育成することが狙いです。これらのコースでは、通常の薬剤師国家試験の受験に必要な科目に加え、がんや感染症の薬物療法に欠かせない知識・技能を講義・演習・実習形式で体系的に学ぶことができます。本学部でこれらの特別コースを履修することで、将来的には「がんや感染症薬物療法に強い」「コミュニケーション能力が高い」といった、独自の強みを持つ医療人へと成長できるでしょう。

福岡大学薬学部は、長い歴史を有しながらも、常により良いものを追求し、そのための変化を惜しみません。ぜひ本学で共に学び、多様な時代の変化にも柔軟に対応しながら、生涯にわたって活躍できる薬剤師・医療人を目指しましょう。

目次

学部長メッセージ …… 01
薬学科紹介 …… 02
2024年度からの新カリキュラム …… 04
クリニカルファーマシスト養成プログラム「がん薬物治療学コース」に続く「感染症薬物治療学コース」2025年春スタート！ …… 08
研究室・附属施設 …… 11
学修支援 …… 13
資格・就職先 …… 14
Q&A …… 15
大学院 薬学研究科 …… 17

▶ 基礎から臨床までバランスのとれた薬学教育

低学年次に基礎的な科目を、高学年次に専門性の高い科目を配置し、薬学教育の三つの要素である基礎・創薬科学、医療・臨床薬学、衛生薬学を学びます。

▶ 大学病院、薬剤師会との連携による実務実習でチーム医療を体感

三つの附属病院のうち、本学部では、福岡大学病院・福岡大学筑紫病院・福岡大学西新病院での実務実習があります。大学近くには福岡市薬剤師会薬局もあり、チーム医療を体感できる環境が充実しています。現場の薬剤部長が薬学部教員であり、臨床現場に即した教育が実施されています。

▶ 充実した施設での実務実習事前学習や薬学共用試験の実施

薬学部棟17号館で実務実習事前学習や薬学共用試験を行います。

▶ 薬学の先端的研究に触れるとともに人間性を育成

卒業研究では、所属する研究室において薬学関連の先端的研究に触れるとともに、少人数ごとに教員と接することで、医療人としての人間性を育成します。

▶ 充実した卒後教育

卒後教育として、卒業生等を対象とした年2回の公開講座を開講しています。

人材養成の目的「三つのポリシー」

- アドミッション・ポリシー（AP）〈入学者受け入れの方針〉
- カリキュラム・ポリシー（CP）〈教育課程編成・実施の方針〉
- ディプロマ・ポリシー（DP）〈学位授与の方針〉

薬学部の詳細は以下のQRコードから（公式ウェブサイト）

▼AP　▼CP　▼DP

薬学科

Department of Pharmaceutics

基礎的・臨床的な先端医療研究を土台とする6年制薬学教育
医療人として、社会から真に信頼される薬剤師となるために

医療技術の高度化や創薬につながる科学の進歩、医薬分業の進展などを背景に、薬剤師が担う使命は大きくなり続けています。

これらを踏まえ本学薬学科では、「医薬品の開発や安全使用に関する基礎的・臨床的先端研究の推進をもって、国民の健康と福祉に貢献すること」を理念とする6年制薬学教育を実施しており、アドミッションポリシーに掲げる人材の入学を求めています。

アドミッションポリシー（求める人材像）

A	知識・理解	高等学校の教育内容を幅広く学修しており、探究心旺盛で科学に関する素養を有する人
B	技　能	患者ならびに医師をはじめとする医療関係者と適切に連携できるコミュニケーション能力を備えている人
C	態度・志向性	思いやり、倫理観、使命感そして強い責任感を備えている人
D	その他の能力・資質	医療業界のグローバル化に対応するため英語の資格を取得した人やスポーツや生活習慣を通じて、心身の健康維持・増進を目指す姿勢を持っている人

求める人材像（求める能力）の詳細は

薬学科での6年間

“福岡大学薬学部は『6年制薬学科』”

- 1年次：早期臨床体験
  - スモールグループディスカッションで、発言力、コミュニケーション能力を鍛える
- 2年次：
- 3年次：研究室配属
  - 1～4年次の教育カリキュラムは、薬学教育の三つの要素「基礎・創薬科学」、「医療・臨床薬学」、「衛生薬学」をバランス良く組み込んでいる
- 4年次：薬学共用試験
- 白衣授与式
- 5年次：実務実習
  - 5年次生全員が、病院と薬局で5カ月間実習する
- 6年次
  - 様々な分野の総合講義で6年間の学修を総復習する
- 卒業研究発表会
- 卒業式
- 薬剤師国家試験

New!
「がん・感染症」コース専攻者選抜 ▸P.08

3年次の後期から卒業研究発表会を目指し、配属された研究室で活動する

CBT※は薬剤師に必要な知識、OSCE※は技能・態度の試験
※詳細は16ページ(Q&A)参照

白衣授与式
みんなで白衣を着用し、医療人としての自覚を再認識！

卒業研究発表会
がんばった研究結果の集大成。
優秀発表賞を目指せ！

卒業式
6年間お疲れさまでした。
あとは国家試験のみ！

将来は

豊かな人間性と倫理観・実践力により社会に寄与する薬剤師や薬学研究者へ

在学生の声（『大学案内2026』）

薬学部公式ウェブサイト

福岡大学薬学部の成果

新卒薬剤師国家試験合格率（110回） 94%

福岡大学薬学部における第110回薬剤師国家試験の新卒合格率です。全国私立薬学部中第5位の成績です。国家試験の難度は年々上がっていますが、本学部は安定した高い合格率を維持しています。

ストレート国家試験合格率（2019年度入学） 81%

入学から留年せずに6年間で卒業し、薬剤師国家試験に合格した学生の割合です。この数値は九州の私立大学薬学部でトップを誇り、全国的にも上位に位置しています。充実した教育体制と学生への丁寧なサポートが、この優れた実績を支えています。

ストレート卒業率（2019年度入学） 86%

入学から留年せずに6年間で卒業した学生の割合です。（2019年度入学生）。九州の私立大学薬学部中ではトップの値であり、全国的にも上位に位置しています。福岡大学薬学部の質の高い教育力の証です。

退学率（2018年度入学） 0.9%

全国の私立大学薬学部の中で最も低い水準を誇る退学率です。きめ細かな学生支援と充実した教育環境による成果であり、本学部の総合的な教育力を示す重要な指標となっています。

薬学共用試験合格率（2024年度） 99%

薬学共用試験の合格率です。全国の6年制薬学部では、5年次に実務実習に参加するために、4年次後期に薬学共用試験の合格が必須となっています（16ページ）。この試験の合格は、実務実習に必要な基本的な知識および技能・態度を修得したことを証明するものです。

就職率（2024年3月卒業者） 100%

薬剤師国家試験合格者の卒業時点での就職率です。同窓会の強いネットワークを生かし、各業界で活躍する卒業生による手厚いキャリアサポートが、高い就職率を支えています。

薬学部卒業生数（2023年度累計） 約13,000人

創立65年の歴史を誇る福岡大学薬学部は、約13,000人の卒業生を輩出し、病院、調剤薬局、製薬企業、行政など多方面で活躍しています。新設大学ではなし得ない強い絆で結ばれた卒業生同士のネットワークは、医療業界の発展に貢献し続けています。

学生満足度 96%

過去3年間の卒業生アンケートにおいて、「福岡大学薬学部に進学して良かった」と回答した割合です。アンケート実施以来、90%を下回ることのない高い満足度は、本学部の教育への取り組みが学生から高く評価されていることを示しています。学生の高い満足度は、薬学部全職員の誉れです。

卒業生の声

コミュニケーション学などの授業で磨き上げた“人の一生”に関わる薬剤師の誇りを磨く。

薬剤師の仕事は「薬を渡す」だけではありません。医師や看護師、栄養士といったさまざまな人と連携を取りながら、患者さんの一生に関わっていく職種です。そのため、薬の知識に加えて人としてのコミュニケーション能力が求められます。本学科では、薬学の講義に加え、スモールディスカッションの時間が多く設けられている他「コミュニケーション学」という科目が開設されているため、高い対人スキルを身に付けられました。さらに、学生主体の課題解決型学習プログラム「ふくやくプロジェクト」や学会発表などでは、自信を持って発言できる力を養えます。今は、薬剤師の魅力を伝えながら、社員採用の業務にも携わっています。

本学科は、薬剤師に限らず、化粧品開発や薬の研究、MRなど、将来の選択肢が豊富に広がっていることも魅力です。本学出身の薬剤師の数も多いので、全国各地でOB・OGの先生や先輩方と出会えて心強いという点でも、進学して良かったと実感しています。

井上 鈴菜 さん（2020年卒業）
株式会社大賀薬局

2024年度より 新カリキュラムが始動！

急激な少子高齢化、労働人口の減少、AIの登場、健康格差、増大する医療費の問題……。大きく変貌する日本の社会構造は、将来に大きな影響を及ぼすことになると予想されています。これらの変化や予測困難な出来事に対して柔軟に対応可能であり、時代のニーズに合わせて生涯にわたって活躍できる薬剤師が必要とされています。本学薬学部では、こうした人材を養成するためにつくられた新カリキュラムを学習することで、薬剤師として社会で活躍できる能力の修得を目指します。

新カリキュラムの特徴

1 実践的な薬物治療に対応するための知識と能力を養成します

薬学教育モデル・コア・カリキュラムでは、実践的な薬物治療を行うために必要な資質が求められています。そのため、新カリキュラムでは臨床に関連する演習および実習科目を多数導入しています。また、低学年からは解剖学演習など、臨床に直結する科目も積極的に配置されています。

2 大きく変化する社会でも活躍できる薬剤師を育てる教育を行います

超高齢社会やIT技術の進展などに対応すると同時に、大学と医療現場が連携を密にして効率的な教育を行うことにより、多様な場や人をつないで活躍できる薬剤師を育てます。

3 課題の発見と解決を科学的に探究できる人材を育成します

基本的な知識や技能を覚えることは大切です。しかし教科書にないような事態に薬剤師が遭遇した際、その問題を解決する能力が社会では求められます。こうした薬剤師としての実践的な臨床能力を養成でき、生涯にわたっての目標となるような、新たなモデル・コア・カリキュラムを展開します。

生涯にわたって目指すべき10の資質

1. プロフェッショナリズム
2. 総合的に患者・生活者をみる姿勢
3. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢
4. 科学的探究
5. 専門知識に基づいた問題解決能力
6. 情報・科学技術を生かす能力
7. 薬物治療の実践的能力
8. コミュニケーション能力
9. 多職種連携能力
10. 社会における医療の役割の理解

科目の詳細は ›

新カリキュラム一覧

授業科目は、共通教育科目と専門教育科目に分かれています。共通教育科目はさらに、総合教養科目（人文科学、社会科学、自然科学、総合系列科目、学修基盤科目）、外国語科目、保健体育科目に分けられています。専門教育科目は各年次科目に分けられています。

共通教育科目

総合教養科目

総合大学の特長を生かして、優れた人間性と倫理観を磨く教育を実践しています。総合教養科目は5群（人文科学22科目、社会科学17科目、自然科学4科目、総合系列科目1科目、学修基盤科目4科目）と豊富な科目と内容で編成され、学部の枠を超えて他学部学生と同一教室で受講することで、幅広い人間性の育成を図っています。2022年度から学修基盤科目に新しい科目「データサイエンス・AI入門」が設置されました。この科目は、さまざまな社会活動においてデータに基づく意思決定が求められる現在、数理的思考力やデータ分析能力をもつ人材、さらには人工知能（AI）を活用できる人材の育成を目的としています。

総合教養科目は、選択科目です。

外国語科目

語学（第1、第2外国語共）の授業に関しては、少人数制を採用しています。

第1外国語（英語）については、1クラス30人程度で授業を行い、積極的に英語を使用できる環境を作っています。また、TOEIC® IPテストの結果を用いた習熟度別クラス編成により、学生一人一人の英語力に応じたクラスでの授業を展開し、着実なレベルアップを図ります。学生によって学習すべき内容が異なるため一人一人の苦手な部分に対応し学習内容をカスタマイズするe-Learning教材を授業に導入します。自分のレベルにぴったりの教材で、効率的な学習を行うことが可能です。

第2外国語科目は選択科目にしています。

保健体育科目

スポーツを楽しむ態度を身に付け、生涯にわたって心身共に健康でQOL（Quality of Life）を高めていくために設置しています。

共通教育科目	総合教養科目	人文科学	哲学A、哲学B、論理学A、論理学B、倫理学A、倫理学B、宗教学A、宗教学B、日本史A、日本史B、東洋史A、東洋史B、西洋史A、西洋史B、日本文学A、日本文学B、アジアの文学A、アジアの文学B、西洋文学A、西洋文学B、芸術A、芸術B
		社会科学	法学A、法学B、政治学A、政治学B、日本国憲法、経済学A、経済学B、商学A、商学B、社会学A、社会学B、地理学A、地理学B、心理学A、心理学B、文化人類学A、文化人類学B
		自然科学	統計入門、物理の世界、化学実験、生物学実験
		総合系列科目	福岡大学で考える現代社会（多職種連携で支える人生100年時代）
		学修基盤科目	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか、データサイエンス・AI入門、アカデミックスキルズゼミⅠ、アカデミックスキルズゼミⅡ
	外国語科目	第1外国語	Practical EnglishⅠ～Ⅲ、Core EnglishⅠ～Ⅲ、Advanced EnglishⅠ～Ⅱ、海外英語研修
		第2外国語	ドイツ語Ⅰ～Ⅱ、フランス語Ⅰ～Ⅱ、中国語Ⅰ～Ⅱ、ロシア語Ⅰ～Ⅱ、スペイン語Ⅰ～Ⅱ、朝鮮語Ⅰ～Ⅱ
	保健体育科目		生涯スポーツ演習Ⅰ～Ⅳ、生涯スポーツ論

専門教育科目

薬学部の全ての専門教育科目は、各科目の内容によって基礎薬学、衛生薬学、医療薬学、臨床薬学、薬学研究の5分野に分類されています。これにより多様な科目の中で、今学んでいる科目の学問分野が学生に分かりやすくなっています。

専門教育科目は原則として、低学年次に基礎系科目を、高学年次に臨床系科目を含む専門性の高い科目を配置していますが、低学年次から臨床系科目を学ぶことで、薬学への興味を深めてもらうために、腫瘍感染症薬学入門(1年次生)や患者アセスメント薬学演習(2年次生)等の臨床系科目を設けています。さらに医療倫理やコミュニケーション能力を強化するためのアクティブラーニング科目として、早期臨床体験Ⅰ(1年次生)やコミュニケーション学演習Ⅰ、Ⅱ(3、6年次生)等の設置、近年の急速なAI・デジタル化が進む医療業界に対応するための情報処理科目として、薬学情報処理リテラシー演習(1年次生)等を設けています。

薬学部のカリキュラムは、薬剤師国家試験のための高度な薬学専門知識を涵養する科目に加え、時代の要請に応じた最新の学問分野も取り入れ、調和のとれた体系的なカリキュラムが編成されています。

専門教育科目	1年次科目	必修科目		薬学情報処理リテラシー演習			
		選択必修科目	基礎薬学	薬学物理化学入門 薬学生物学入門	薬学化学入門 機能形態学	無機薬化学 解剖学演習	有機薬化学Ⅰ
			臨床薬学	薬物治療学入門	腫瘍感染症薬学入門	薬剤師入門	早期臨床体験Ⅰ
	2年次科目	必修科目		微生物学実習 医療体験実習	生化学実習	薬品分析学実習	衛生化学実習
		選択必修科目	基礎薬学	薬学物理化学基礎 生薬・漢方薬学Ⅰ 医薬品化学Ⅰ	薬学物理化学応用 生薬・漢方薬学Ⅱ 生化学	日本薬局方 有機薬化学Ⅱ 免疫学	分析化学Ⅰ 有機薬化学Ⅲ
			衛生薬学	微生物学	疾患食品衛生学		
			医療薬学	薬理・薬物治療学Ⅰ	放射性医薬品学	薬物動態学	医薬品情報学
			臨床薬学	患者アセスメント薬学演習	薬学英語演習	早期臨床体験Ⅱ	
	3年次科目	必修科目		機器分析学実習 薬理学実習	薬化学実習 薬学研究入門	生薬・漢方薬学実習	医薬品化学実習
		選択必修科目	基礎薬学	分析化学Ⅱ 内分泌薬学	分析化学Ⅲ	天然物化学	医薬品化学Ⅱ
			衛生薬学	公衆衛生学	薬毒物代謝学	感染症薬学	
			医療薬学	薬理・薬物治療学Ⅱ 製剤学	薬理・薬物治療学Ⅲ 薬物動態解析学	薬理・薬物治療学Ⅳ 医薬品安全性学	物理薬剤学
			臨床薬学	臨床検査学	医薬品開発・経済学	コミュニケーション学演習Ⅰ	
		選択科目		ファーマシスト実践演習Ⅰ			
	4年次科目	必修科目		薬事医事関係法規総合論Ⅰ 実務実習事前学習	総合薬学特別講義Ⅰ	薬学研究Ⅰ	薬剤学実習
		選択必修科目	衛生薬学	環境衛生学	感染制御学演習	疫学研究演習	
			医療薬学	バイオ医薬品学 臨床薬物動態学	薬理・薬物治療学Ⅴ 薬学疾患管理学	薬理・薬物治療学Ⅵ	薬物送達学
			臨床薬学	薬学臨床推論基礎	医薬品調剤・販売論	腫瘍薬学	個別化医療薬学演習
	5年次科目	必修科目		実務実習	薬学研究Ⅱ		
		選択科目		ファーマシスト実践演習Ⅱ	ファーマシスト実践演習Ⅲ	ファーマシスト実践演習Ⅳ	
	6年次科目	必修科目		薬事医事関係法規総合論Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅱ	総合薬学演習	薬学研究Ⅲ
		選択科目		先端治療学 薬物療法評価学	薬事行政論 臨床漢方薬学演習	地域医療薬学 実務実習事後演習	薬学臨床推論応用 コミュニケーション学演習Ⅱ

Pick Up 科目

新カリキュラムで追加される科目から、いくつかご紹介します。

1年次必修科目 | 薬学情報処理リテラシー演習

大学生活を快適に過ごすためのPC活用法を学びます
レポート作成に必要な基本ソフトの使い方を習得します

薬剤師は、薬の情報を患者さんに分かりやすく説明するスキルが必要です。そのためには、薬の情報を「収集」、「加工する」、「まとめる」および「発表する」技能を大学生活で身に付ける必要があります。この演習では、薬学生にとって必要な基本ソフトの使い方を学びながら、情報を効率よく整理・解析し、理論的に考察する方法を習得することを目指します。

2年次選択必修科目 | 患者アセスメント薬学演習

患者さんの状態を確認しながら、薬物療法の効果を評価します

身体的な生体情報を確認し、評価するのがフィジカルアセスメントです。患者さんの状態や症状は、刻々と変化していきます。フィジカルアセスメントは、その変化を映画の一コマとして捉え、連続性と新規性を評価します。

3年次必修科目 | 薬学研究入門

最新の研究を知ることで、研究の魅力を発見できます
薬剤師に必要な研究マインドを育むことができます

現役の薬学研究者らが講師を務める本科目では、いかにして独創的研究アイディアを発想し、その研究の突破口を開こうとするかなど、研究者のリアルな声を聴くことができます。研究のおもしろさや必要性を低学年で知ることで、薬剤師として必要な、臨床現場における薬学的問題を発見・解決し、それを社会に発信できる力、すなわち研究力の素地を育むことを目指します。

4年次選択必修科目 | 薬学臨床推論基礎

薬剤師が患者の病態をアセスメントする時代になり、
今後の臨床では必須となるスキルを身に付けるための講義

臨床推論とは患者の病態を正しく評価し、問題解決の方策を見極めるための思考プロセスです。患者をモニタリングするこれからの薬剤師には、病歴や身体所見、バイタルサインから何が起こっているかを理解し、薬物由来の症状かを判断する必要があります。本講義は将来、病院や薬局で活躍する上で薬剤師にとって必携のスキルを身に付けるための講義となります。

アクティブラーニング | 3年次および6年次選択必修科目 | コミュニケーション学演習ⅠおよびⅡ

薬剤師に必要なコミュニケーションスキルを身に付けるために
ロールプレイ形式を取り入れた演習

薬剤師の業務は対物業務から対人業務へとシフトしています。そこで薬剤師は、①患者との信頼関係を築くため、②医療従事者と円滑に意思疎通を図るためにコミュニケーション能力が重要なスキルとなっています。本演習はロールプレイ形式を取り入れ、実務実習前の3年次(Ⅰ)および実習後の6年次(Ⅱ)を通じて、継続的にコミュニケーションを学んでいきます。

Column 1年次生から始める企業との連携プロジェクト

［ふくやくプロジェクト］

薬学部では、課外活動として課題解決型学習プログラム「ふくやくプロジェクト」を実施しています。このプロジェクトは1年次生から3年次生を対象とし、学生たちは与えられた課題に対してチームで取り組みます。事前調査や活動計画の立案を行い、企業・団体・自治体と連携しながら解決策を探索します。1年次生の時から問題解決に向けて企業等との真剣な会議を重ねていきます。すでに、その成果として、低学年から研究費の獲得や学会での研究発表、イベントへの出展などの実績を上げています。

外部企業など関係者を招待した最終プレゼン大会の様子

クリニカルファーマシスト養成プログラム

「がん薬物治療学コース」に続く「感染症薬物治療学コース」2025年春スタート！

なぜ感染症薬物治療学コースの新設が必要なのか？

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、未知の脅威に対し、私たちがいかに脆弱であるかを露呈しました。しかし、この経験は、感染症薬物治療の新たな可能性を追求する原動力にもなっています。感染症薬物治療学コースは、既存の枠にとらわれず、最新の研究成果や臨床知見に基づいた、実践的な治療戦略を学ぶ場です。次なる感染症の脅威に、私たちはどう立ち向かうのか。その答えを共に見つけ出しましょう。

薬剤師の、さらに上をめざそう。“がん”と“感染症”薬物療法の強みをもつ薬剤師を養成

クリニカルファーマシスト養成プログラムは、「薬剤師国家試験に合格して資格が取得できればよい」というだけにとどまらず、“がん”と“感染症”という臨床的に極めて重要な専門領域で、独自の強みを備えた薬剤師を養成することを目指しています。高い志を持った方の挑戦をお待ちしています。

■本プログラムのPOINT

1 感染症薬物治療学コースは、“感染症薬物療法”の実践的な知識・技術を学ぶ

感染症の薬物治療は、迅速な病原微生物の同定や最適な抗菌薬選択が治療成功の鍵となります。さらに、耐性菌の出現や新興感染症への対応など、常に最新の知識の取得が求められます。薬学部の通常のカリキュラムでは十分とは言えない“感染症薬物療法”の実践知識を、最新のエビデンスと共に学び、即戦力となる力を養成します。

2 がん薬物治療学コースは、“がん薬物療法”の実践的な知識・技術を学ぶ

がんの薬物治療は、がん種や進行度、患者の全身状態に応じた慎重な薬剤選択判断、さらに、分子標的薬や免疫療法など、急速な治療の進歩への対応など、とても複雑で高度な専門知識を必要とします。薬学部の通常のカリキュラムでは十分とは言えない“がん薬物療法”に関する、実践的な知識・技術を学んで実力を養います。

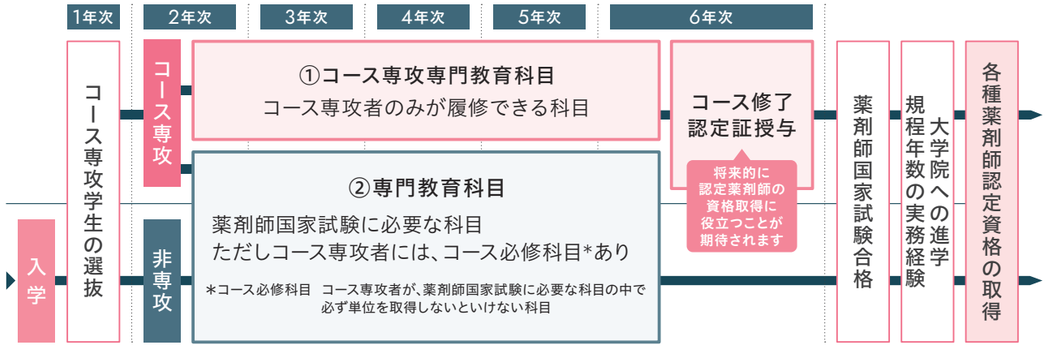
3 “がん”や“感染症”薬物治療に対する強みを磨いて独自性を出す

今後、薬剤師の供給過剰が予想される中、薬学部では“がん”や“感染症”の薬物療法に特化した独自の教育を行い、社会状況の変化に柔軟に対応できる専門性そして独自性の高い薬剤師を養成します。

4 “がん”や“感染症”専門薬剤師の取得条件を早期に満たす

がんに関連する認定薬剤師や専門薬剤師の資格を得るには、①薬剤師としての実務歴、②がんや感染症に関する知識、③自身が関与した症例報告が必要となります。本プログラムを修了すれば、①を満たした卒業後の早期段階で、資格取得の条件が得られます。

■学びのスケジュール



1）コース専攻者の選抜は、1年次生の成績（年間の平均点・GPA）を用います（受け入れ人数は各コース約30人）。

2）コース専攻者は、2年次生から6年次生までに専門教育科目（①②の2種類）を履修します。コース履修で学費が変わることはありません。
① コース専攻専門教育科目（上図）は、がんや感染症に特化した科目で、コース専攻者だけが履修できます。
② 専門教育科目（上図）は、薬剤師国家試験に必要な科目で、非専攻者と共通です。
ただし、コース専攻者には、②専門教育科目の中にコース必修科目が含まれています。コース必修科目は、コース専攻者が必ず単位を取得しなければならない科目であり、1科目でも不合格となるとコースから除外されます（除外されても進級には影響しません）。

3）コース専攻者においては、コース修了後に福岡大学薬学部が認定するコース修了認定証を授与します。

4）コース専攻者と非専攻者はともに、薬剤師国家試験を受験できます。さらに、がんや感染症の知識を生かして大学院に進学することも可能です。

■両プログラムで学修する専門教育科目

両プログラム専攻者の「❶コース専攻専門教育科目」および「❷専門教育科目中のコース必修科目」は以下の通りです。表中のファーマシスト実践演習科目は全て❶コース専攻専門教育科目。それ以外の全科目は❷専門教育科目中のコース必修科目です。

	がん薬物治療学コース		感染症薬物治療学コース	
1年次	❷解剖学演習	❷腫瘍感染症薬学入門	❷解剖学演習	❷腫瘍感染症薬学入門
2年次	❷免疫学 ❷生化学	❷患者アセスメント薬学演習	❷免疫学 ❷微生物学	❷患者アセスメント薬学演習
3年次	❷感染症薬学 ❷臨床検査学 ❷薬理・薬物治療学Ⅲ ❶ファーマシスト実践演習Ⅰ（がん疫学演習）	❷公衆衛生学 ❷薬毒物代謝学 ❷薬理・薬物治療学Ⅳ	❷感染症薬学 ❷臨床検査学 ❶ファーマシスト実践演習Ⅰ（抗菌薬適正使用学演習）	❷公衆衛生学 ❷薬物動態解析学
4年次	❷薬学臨床推論基礎 ❷疫学研究演習 ❷薬理・薬物治療学Ⅴ ❷腫瘍薬学	❷感染制御学演習 ❷個別化医療薬学演習 ❷薬理・薬物治療学Ⅵ	❷薬学臨床推論基礎 ❷疫学研究演習 ❷薬理・薬物治療学Ⅴ	❷感染制御学演習 ❷個別化医療薬学演習 ❷バイオ医薬品学
5年次	❶ファーマシスト実践演習Ⅱ（がん緩和ケア演習） ❶ファーマシスト実践演習Ⅲ（がん治療管理学演習） ❶ファーマシスト実践演習Ⅳ（がん患者アセスメント演習）		❶ファーマシスト実践演習Ⅱ（臓器・症候別感染症学演習） ❶ファーマシスト実践演習Ⅲ（抗菌薬TDM演習） ❶ファーマシスト実践演習Ⅳ（感染症患者アセスメント演習）	
6年次	❷先端治療学	❷薬物療法評価学	❷先端治療学	❷薬物療法評価学

■プログラム専攻者が目指す薬剤師像

本プログラムでは臨床現場で必要とされる薬物療法に関する実践的な知識を幅広く学びます。そのため薬剤師に必要とされる薬物療法に関する知識だけでなく、これから必要とされる「患者をみる力」を習得できます。その結果として、特に“がんや感染症の薬物療法に強い”、“卒業後に即戦力となる”薬剤師として活躍できるでしょう。さらに本プログラムで学んだ高度な知識と技能は、大学を卒業後、将来的にがん指導薬剤師やがん専門薬剤師などの認定薬剤師*になる際に大きな助けにもなるはずです。

＊このコースを修了しても認定薬剤師になれるわけではありません。認定薬剤師になるためには卒業後の実務経験が必要です。

■専門の資格を有したプロフェッショナルな教師陣

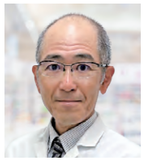
▶がん薬物治療学コース

日本医療薬学会が認定するがん専門資格の中には、「**Aがん専門薬剤師**」と「**Bがん指導薬剤師**」があります。本コースでは、Aがん専門薬剤師またはBがん指導薬剤師の資格を有した薬学部教員を中心に講義や演習を実施しています。

A がん専門薬剤師 について	高度化するがん医療の進歩に伴い、薬剤師の専門性を生かしたより良質かつ安全な医療を提供するという社会的要請に応えるため、がん薬物療法等について高度な知識・技術と臨床経験を備える薬剤師として認定されています。
B がん指導薬剤師 について	がん専門薬剤師の育成および指導などを行える上級資格として認定されています。

松尾 宏一 教授

我が国ではがんの罹患数と死亡数は増加し続けていて、医療現場においては以前にも増して重要な疾患となっています。そこで本学部の「がん薬物治療学コース」は、入学早期の段階からがん治療に関する正しい知識を身に付けるために、他大学に先駆けて設置されました。コースではその基礎および薬剤師が臨床現場でどのように関わっているかを学んでもらい、卒後はがん治療分野で活躍できる薬剤師となってもらいたいと願っています。



緒方 憲太郎 教授

がんは患者とその家族の人生に大きな影響を及ぼす疾患の一つです。そのため患者・家族には支えてくれる人が必要であり、薬剤師もその一人です。将来、あなたが患者・家族にとって最良の結果を目指す医療チームの中で、患者・家族と共にがんに立ち向かい、薬の専門家として重要な役割を果たすことが患者・家族の喜びになり、あなたの喜びになることでしょう。そのための第一歩を福岡大学薬学部で踏み出してみませんか。

林 稔展 准教授

がん医療が高度化する中で、薬剤師の役割はますます重要になっています。がんの治療はもちろん、副作用への対策、痛みなどのつらい症状を和らげる治療など、薬を上手く使うことでがん患者さんをサポートできることはたくさんあります。研究をしてより効果的な薬の使い方を見つけることも大切な役割です。福岡大学では、臨床経験豊富ながん専門薬剤師が実践的な指導をします。一緒にがんの患者さんを支える薬剤師を目指しませんか。

内山 将伸 准教授

がんは複雑な病気であり、その理解と対処には広範な知識と高度なスキルが求められます。治療で使用する抗がん薬は高い毒性を有しており、安全かつ効果的な薬物療法を提供するためには、薬剤師による専門的な助言や提案が不可欠です。「がん薬物治療学コース」で学ぶことは、がん患者の命を支え、未来の医療に貢献する素晴らしいチャンスです。同じ志を持つ仲間たちと共に学び、協力し合いながら成長していくことを期待しています。

▶感染症薬物治療学コース

感染分野の薬剤師資格としては、日本病院薬剤師会が認定する「**A感染制御専門薬剤師**」および「**B感染制御認定薬剤師**」、日本化学療法学会が認定する「**C抗菌化学療法認定薬剤師**」および「**D外来抗感染症薬認定薬剤師制度**」などがあります。本コースでは、これら資格を有した薬学部教員を中心に講義や演習を実施しています。

A 感染制御 専門薬剤師 について	感染制御に関する高度な知識、技術、実践能力により、感染制御を通じて患者が安心・安全で適切な治療を受けるために必要な環境の提供に貢献するとともに、感染症治療に関わる薬物療法の適切かつ安全な遂行に寄与することを目的に認定されています。
B 感染制御 認定薬剤師 について	感染制御に関する専門薬剤師の下位資格として認定されています。
C 抗菌化学療法 認定薬剤師 について	感染症の種類や病態に応じてどの抗菌薬を選択し、どう使ったらいいのかを実践できるような感染症制御チームの中での抗菌薬使用のスペシャリストとして活躍することを目的に認定されています。
D 外来抗感染症薬 認定薬剤師制度 について	外来診療に係る感染症や抗感染症薬(外用薬含む)、薬剤耐性について専門知識を有し、感染症治療の領域でその真価を発揮できる認定薬剤師を輩出することを目的に認定されています。

中野 貴文 准教授

感染症は誰にでも発症する身近な病気であり、特に体力の低下している方にとっては大きな脅威となります。感染症に精通した薬剤師は、こうした方々を感染症から守る(予防)、そして薬物療法を支援する(治療)重要な役割を担っています。治療だけではなく予防に関する知識は、患者さんのみならず、友人や家族など大事な存在を守る知識にもつながります。感染症パンデミックはまたいつか必ず起こります。次はあなたたちが守る立場になる番です。本学部の「感染症薬物治療学コース」はその礎になるようなコースを目指しています。

宮﨑 元康 助教

感染症は患者だけでなく、その家族や地域社会など、私たちの日常生活にも深く影響を及ぼす重要な疾患の一つです。近年、新興感染症の流行や薬剤耐性菌の増加に伴い、感染症医療はますます複雑化・高度化しています。そのような状況下で、感染症治療におけるチーム医療の重要性が一層高まっており、薬剤師はその中核を担う存在です。

患者に寄り添い、最適な薬物療法を提案することで治療の成功を支え、患者やその家族に安心感をもたらすことは、薬剤師としての大きな使命であり、同時に大きなやりがいでもあります。そのためには、感染症医療に必要な基礎知識と臨床スキルを早期から身に付けることが重要です。これからの医療現場で活躍し、社会に貢献できる薬剤師を目指していただきたいと心より願っています。

山科 卓也 助教

感染症は身近な病気であり、医療に携わる中で誰もが遭遇する可能性があります。感染症の治療薬は細菌やウイルスを標的とするため、薬剤の選択や投与設計、血中濃度管理に関して、専門的な知識と技能が求められます。福岡大学薬学部では、実践的な指導を通じて感染症治療の現場で活躍できる薬剤師の育成を目指しています。一緒に患者さんを支える力を磨き、医療に貢献する第一歩を踏み出しましょう。

研究室・附属施設

薬学部では3年次後期から研究室配属となり、卒業研究を進めることになります。
特色ある研究室と附属施設を紹介します。

化学系

■ 薬化学研究室

現代医療で使用されている医薬品の多くは有機化合物であり、新しく合成された化合物です。薬化学研究室では、特徴ある構造と生物活性を有する化合物の分子設計および合成に関する研究を目的とした有機合成化学の基礎的研究を行っています。すなわち、炭素、窒素、酸素など少なくとも2種類の異なる元素を含む環式化合物であるヘテロ環化合物の新規合成、また、それら合成化合物の悪性腫瘍や真菌に対する増殖抑制効果などの生物学的評価を行い、創薬を指向したリード化合物の創製に関する研究を進めています。

■ 医薬品化学研究室

私たちの研究室では、触媒反応開発、機能性化合物創出、創薬という3つの研究テーマに取り組んでいます。有機化学を基盤として、触媒反応開発研究では有機金属触媒反応や配位子設計などを、機能性化合物創出研究では包接化合物や多環性複素環化合物の合成などを、創薬研究では抗菌、抗ウイルス、および抗腫瘍候補化合物の探索などを行っています。配属学生と共に化学構造式と向き合いながら日々研究を行っています。

■ 生薬学研究室

医学が「治療」から「予防」へと転換期を迎えつつある現在、天然薬物への関心が高まりつつあります。また新薬開発の先導(リード)化合物としての価値も増しています。天然薬物の中心は植物成分(フィトケミカル)ですので、生薬学研究室では、古来、受け継いできた自然からの恩恵に対し、主に植物化学的、細胞薬理学的側面からアプローチすることを目的として研究を進めています。

物理学系

■ 薬品分析学研究室

分析化学は、化学系、生物系、医療系を含む全ての薬学領域における「縁の下の力持ち」的な学問とされています。どのような計測機器を用いても、測定値(分析結果)が正しくなければ、新しい薬物を創り出すことはおろか、既存の医薬品を有効に活用することもできません。私たちは、生体成分や医薬品、環境汚染物質などをできるだけ簡単に、そして正確に分析するための方法論を開発することで、薬学・医療の向上のために寄与しています。

■ 薬品物理化学研究室

薬を服用してから効果が表れるまでには、薬と私たちの体との間でさまざまな反応が起こります。その反応を詳しく調べることで、より良い効果を示す薬や副作用の少ない薬を開発することができます。本研究室では、薬に関して医療や介護の現場で問題となっていることを解決するために実験ならびにコンピュータによる分子シミュレーションを行っています。

■ 臨床分析科学研究室

病気を見つけるためにはどうすればよいのでしょうか?医療の現場では、適切な治療を行うため、正確な診断を行うことが求められます。私たちの研究室では、その診断を行う、あるいはそれを行うための方法や技術を考案したり、開発したりすることを目的とした研究を行っています。実際には、方法論の開発という基礎的な研究内容が多い場合がありますが、それに留まることなく、開発した方法を臨床的に応用させるなど、薬学や医療分野に常に貢献できることを目指して研究を行っています。

生物学・衛生学系

■ 生化学研究室

遺伝情報発現制御の実行プログラムを理解することは、さまざまな生命現象の分子メカニズムを解明するために必要です。特に転写活性化・不活性化のperformerである転写調節因子群の機能は、発生・分化、内分泌、脳機能などの高次生命現象のみならず、がん、生活習慣病などの病態にも関わってきます。本研究室では、このような概念を根幹に据えて、組織あるいは時期特異的に転写活性を制御する因子、シグナル伝達分子の作用メカニズムなどに関する研究を行っています。

■ 衛生化学研究室

衛生化学は、さまざまな病気や有害化学物質などから“生(健康)”を“衛”るための学問です。私たちの研究室ではこのことを念頭に、生活習慣病の発症メカニズムを遺伝子レベルで明確にするために研究しています。これらの研究で生活習慣病の発症や悪化に関連している遺伝子・タンパクを見つけ、それらを創薬研究に役立てることで人々の健康な生活を“衛”りたいと考えています。

■ 微生物薬品化学研究室

エイズ・マラリア・結核をはじめとする多くの感染症の克服は、21世紀に持ち越された医学・薬学の重要な課題です。感染症の予防・治療を目的とした新たな手段と戦略の開発が必要とされています。私たちは、近年進歩の著しい分子生物学手法を用いたアプローチによって、新たな微生物の機能を理解し、創薬による感染症克服へ向けて、日々研究を行っています。

薬理学系

■ 臨床疾患薬理学研究室

本研究室は、医療に直結した創薬と臨床薬剤師養成を目指しています。認知症やうつ病などの精神疾患の漢方治療の薬理学的エビデンスの構築「漢方を科学する」を目指して、行動薬理学を基盤に生理学的、分子生物学的手法を積極的に取り入れて研究を行っています。さらにはiPS細胞を駆使した難治性疾患の発症機序研究、グリア創薬を目指した研究を行っています。

■ 生体機能制御学研究室

本研究室では、蛋白質ミスフォールディング病の病態機構の解明と早期診断法の開発、環境による腸内細菌叢の変化に関する研究、脳循環器機能障害の病態解明とその治療薬の開発について行動薬理学、神経科学、分子生物学的手法を用いて研究を行っています。研究は、問題解決能力、判断力、自立力を高めるための方法として最適です。研究課題を通して、新しい発見に挑み、研究のわかる新たな薬剤師を目指しませんか。

■ 免疫・分子治療学研究室

臨床の現場で活躍する薬剤師には、患者さんの治療に向けて医師、看護師やコメディカルと強く連携することが求められます。そこで、本研究室では感染症やがんなどの基礎研究を通じて疾患の病態の理解力を養うとともに、実験立案や結果報告を経験することでプレゼンテーション能力や討論力を育成します。また研究室内での日常生活を介して積極的で責任感のある人間形成を目指しています。

■ 臨床薬物治療学研究室

多くの研究努力の結果生まれた「薬」は、患者さんが服用してはじめてその役割を果たします。それは「医療者」と「患者さん」という、人と人とのコミュニケーションの中で実現します。そしてこの段階で大きな役割を果たすのが「薬剤師」です。本研究室は、この臨床的場面をさらに優れたものにすることを研究の目的としています。

各研究室の動画はこちら ›

薬剤学系

■ 応用薬剤学研究室

安心で安全な薬物治療を行うためには副作用を未然に防ぐことが必要です。本研究室では、副作用が起こりやすい病態を明らかにし、その「発現しやすさ」を予測できる個体情報を見つける目的で基礎研究を行っています。特に、脳に関連した病気と副作用や薬物の脳移行性などに関する医療薬剤学的な研究に取り組んでいます。これらの研究成果は、副作用の予防や回避に役立ちます。

■ 薬学疾患管理学研究室

人の健康維持や疾患治療に関わる際、薬剤師は「薬」を基点に専門性を発揮して、個人個人にマッチした健康法や薬物治療をマネジメント（管理）する必要があります。私たちの研究室では、個人差が生じるメカニズムを薬物動態学や薬力学を駆使して追求し、健康・医療の個別化に貢献したいと考えています。現在は、動脈硬化、中枢性疾患、肺疾患での、性差の有無、薬物動態の変化および医薬品有害作用との関連などについて研究を進めています。

■ 創剤学研究室

皆さんが普段目にしている「薬」は有効成分だけではできていません。添加剤を加え、溶解性、吸収性、安定性、味や臭いなどのさまざまな性質を改善することで、薬理作用を効果的に発揮し、副作用を軽減し、服薬アドヒアランスを向上させる工夫がされた「製剤」が使用されています。創剤学研究室では、新しい製剤を創造する研究を行っています。

■ 薬物送達学研究室

薬物を①必要な部位に、②必要な量を、③必要な時間だけ送り届けることができれば、薬物による治療効果を最大限に発揮でき、薬の副作用を最小化することができます。このように薬物による治療効果を最適化するための「工夫（手法）」がDDS（Drug Delivery System, 薬物送達システム）です。薬物送達学研究室では、臓器、細胞およびオルガネラへのターゲティング（標的指向化）や薬物およびプロドラッグ（化学構造を変換した薬物）のDDS技術を用いて新しい薬の開発を行っています。

■ 医薬品情報学研究室

薬剤師の重要な職能の一つとして、患者さんや医師・看護師への適切な医薬品情報の提供により、医薬品の効果を最大限に発揮させ、副作用を発現させないことがあります。そのためには、医薬品の情報をどのように構築し提供するかが重要になります。本研究室では、最新の医薬品による副作用報告情報を解析して情報公開を行っています。さらに、医薬品や疾患により生じる神経系の機能的変化の機序を明らかにし、新規治療薬開発につながる新たな情報を生み出すための基礎研究も行っています。

医療・教育学系

■ 救急・災害医療薬学研究室

救急・集中治療を要する重篤病態の患者さんのケアにおいて適切に医薬品を使用することは、その予後に大きく関わります。また、大規模災害にて全ての被災者に医薬品を届けたり、避難所の環境衛生を整えたりするためには、薬事の専門家が現場に必要です。私たちは、救急医療や災害医療の現場で、抗生物質の適正使用、災害時医薬品概況報告システムに関する研究を行っています。

■ 地域医療薬学研究室

高齢化社会を迎えている日本は平均寿命が約80歳に達し、日常生活に支援や介護が必要となる方が増加しています。わたしたちは、中高年者の足・腰といった運動器の機能や高齢者の認知機能のなかでも特に軽度認知障害（MCI）に着目し、地域の薬局においてこれらの徴候を早期に発見し、医療に繋げるトリアージに関する基盤的研究をしています。また、薬局・病院実務実習の調整や指導も行っています。

■ 腫瘍・感染症薬学研究室

がんは、あらゆる疾患の中でも最も死亡率が高く、長年日本人の死因第1位を占めています。また新型コロナウイルス感染症の猛威により、あらためてメディカルスタッフの感染制御に関する高度な知識や技術、実践能力の必要性が認識されています。私たちは、医療現場における薬剤師のがん患者マネジメント、また抗がん薬および抗菌薬、薬物有害事象に対して使用される支持療法薬の適正使用に関する研究を行っています。

■ 病院薬学研究室 ●福岡大学病院薬剤部 ●福岡大学筑紫病院薬剤部

福岡大学には附属病院が併設され、病院では多くの薬剤師が仕事をしています。私たちは病院薬剤部と協同して臨床現場から発生する課題について薬学的研究を行っています。ところで、薬は多くの病気を治療する一方で、本来の目的ではない有害な副作用を持っています。私たちは、副作用の発現情報を早く収集し、その原因を探り、同じ副作用で苦しむ患者が減るように副作用の発現を防止するシステムを構築したいと考えています。また、医師が書く処方箋や、患者への薬の説明、他の医療職種とのチーム医療により得られる「情報」を有効活用し、薬の適正な使い方を探る研究をしています。

■ 薬学教育学研究室

医療が高度化する中で、薬剤師に対する社会の期待の高まりとともに、医療現場における薬剤師の能力向上が求められています。その能力向上に大きな影響を与えるのが薬学教育です。本研究室では、薬学教育センターの学修支援だけでなく、薬学教育に関する新たな教育手法の開発や実践を通して、学生の能動的な学修意欲やコミュニケーション能力の向上につながる教育手法の確立に向けた研究を行っています。「教える」ことの大切さについて一緒に学びませんか。

附属施設

■ 実務実習支援室

薬学部実務実習支援室は、実務実習受け入れ施設との連絡や手続きなどを行う薬学部の窓口です。充実した薬局・病院実習を円滑に行うことができるよう、担当教員が関連諸事につき学生の相談に乗っています。

■ 中央機器室

中央機器室では薬学部での研究には欠かすことのできない実験装置を共通機器として取り扱っています。各研究室の実験で得られた新しい薬物の構造や組成を調べたり、また、その薬物の未知の作用を知るために必要な情報などを提供しています。カリキュラム内の薬学研究においては、教職員とともに学生自身も中央機器室内の高性能な機器類を利用することができます。

■ 薬草園

薬用植物園（薬草園）は文字通り薬草を中心に栽培した植物園ですが、実際はおなじみの植物、例えば、シャクヤクやアンズも薬草の一つなので、普通の植物園と見かけは変わらないかもしれません。でも、注意深く植物の名札を見ると、薬用部位や効能が書いてあります。予約すれば見学も可能であり、一般の方々に最もなじみやすい大学の施設だと思います。

学修支援

薬学教育センター

近年の薬剤師国家試験は、大学で学んだ知識だけではなく、臨床現場で応用できる力が重視されています。このため、従来のような直前の試験対策だけでは不十分であり、低学年からの学習習慣の確立や基礎学力の習熟が重要です。福岡大学薬学部内に設置された「薬学教育センター（薬学教育学研究室）」では、学部学生の学修活動を全面的にサポートし、学びの力が身に付くように各科目の質問や学修相談に応じています。高校時代とは異なる学修に戸惑いを感じ、学修のやり方や成績に不安がある時は、「薬学教育センター（薬学教育学研究室）」を是非利用してください。学修支援スタッフが、学生個々の学修の習熟度や理解度に応じた適切な指導・サポートを行います。

対象学年	主な学修支援の内容
6年次	薬剤師国家試験対策（講義・学修指導） 国試合格支援システム（ファーマパス）
5年次	最新医療情報の配信 薬学共用試験CBT不合格者への学修指導
4年次	薬学共用試験CBT対策（講義・学修指導）
3年次	補習授業・学修指導
2年次	グループ学修会
1年次	学修Q&Aの作成 リメディアル教育（高校理科の補完教育）
入学前	入学前準備教育

薬剤師国家試験に対して高い合格率を維持するため、国家試験と同様の試験を「卒業試験」という形式で実施しています。学生の学力アップのため、国家試験対策集中セミナーと薬剤師国家試験の模擬試験を実施しています。さらに成績不振の学生には、特別学習による国家試験対策の勉強を義務づけています。

入学前準備教育

入学後、スムーズに専門教育科目の内容が理解できるように、薬学部では入学前の準備教育講座の受講を薦めています。この講座は、外部業者が作成した物理、化学、生物の動画教材（オンラインもしくはDVD）により学ぶもので、非常に分かりやすいと評判です！

国試合格支援システム（ファーマパス）

ネットからアクセス可能な薬剤師国家試験問題を含む薬学問題総合データベースです。スマホやPCからアクセスすれば、いつでも、どこでも授業の復習や国試の勉強ができます。薬学部では入学後から卒業まで自由にこのシステムを利用でき、学生に大好評です！

奨学制度

●福岡大学特待生制度［対象年次：学部2年次以上］

学業成績ならびに日々の行いが特に優秀な学生を「特待生」として表彰する制度です。特待生には奨学金（30万円）が授与されます。全学部から約200人が選ばれます。

●日本学生支援機構および福岡大学独自の奨学制度

詳細は、大学案内でご確認ください。

●薬学生向けの奨学制度

▶新・佐賀県薬剤師会薬剤師奨学金制度
http://www.sagayaku.or.jp/s-syougakukin

5年次生・6年次生ならびに卒業前2年以内の大学院生に対し、月額10万円貸与
薬剤師国家試験合格後、佐賀県内の指定薬局で「貸与年数×1.5倍」の期間就業することにより返還免除されます。

▶永冨薬学奨学財団
https://nagatomi-zaidan.or.jp/

保護者説明会に参加した大分県出身者で、日本国内の薬学部に在学する5年次生あるいは6年次生：
5年次生月額5万円、6年次生月額10万円貸与
薬剤師国家試験合格後、大分県内所在の薬局に3年間勤務することにより返還免除されます。

他にも、地方自治体、民間育英団体、医療施設等が実施している多数の奨学制度があります。
福岡大学薬学部ウェブサイトの奨学金情報ページよりお問い合わせください。

福岡大学薬学部ウェブサイトの奨学金情報ページ
https://www.pha.fukuoka-u.ac.jp/scholarship ›

※上記全ての奨学制度の詳細は、2025年4月現在の内容であり、変更となる場合があります。

資格・就職先

資格一覧

取得できる資格

薬剤師国家試験受験資格

薬剤師でなければできない業務

- 医師・歯科医師の処方箋による薬の調剤
- 薬局の管理者
- 医薬品製造業（輸入販売）の管理者
- 保険薬剤師
- 学校薬剤師

薬剤師であればその資格取得に特別の考慮が払われるもの

- 医薬情報担当者（MR）
- 作業環境測定士
- 公害防止管理者
- 環境計量士
- 労働衛生コンサルタント

薬剤師であれば取得できる主な資格（業務）

- 医薬部外品、化粧品又は医療用具の製造（輸入販売）責任技術者
- 医療機器の営業管理者
- 向精神薬取扱責任者
- 毒物劇物取扱責任者
- 薬事監視員
- 麻薬管理者
- 麻薬取締官
- 食品衛生管理者、食品衛生監視員
- 環境衛生指導員
- 検疫委員
- 衛生管理者

進路・就職について

本学部が設立されて65年、今までに1万3千人を超える優秀な人材を世に送り出してきました。その活躍の場は、病院、薬局、製薬業界あるいは薬務行政に携わる公務員等多方面にわたり、指導的立場にある卒業生も数多くいます。また、大学等の教育機関にあって、若い人材の育成と研究活動に邁進している先輩も少なくありません。より高度な専門的知識の修得と研究を目指して、学部卒業後、大学院へ進学することもできます（17ページ参照）。

サポート体制

▶ インターンシップ

在学生が、夏季・春季休暇中などに、病院・薬局・企業等において研修形式の就業体験を行うことで、学内で修得した技能および知識を確認しながら薬剤師の職能を理解し、自分自身の職業適性を見極められるようサポートしています。

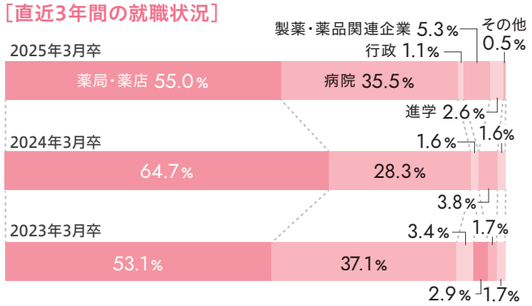
▶ 進路ガイダンス

大学院進学・就職に対する基本的な活動方法、就職試験で大きなウエイトを占める面接試験突破のための「模擬面接会」や「対策講座」、さまざまな職種で活躍している本学部卒業生を講師に招いての「業界別説明会」、病院・薬局・企業・行政など約180事業所による「合同就職説明会」などを行い、在学生の進路実現に向けてサポートしています。

▶ 個人面談（ヒアリング）

一人一人の進学や就職活動に関するさまざまな疑問、悩みや不安を解消し、よりスムーズに卒業後の進路を決定できるように、アドバイスを行っています。

［直近3年間の就職状況］



［主な就職先・進学先］

薬局
- ㈱アインファーマシーズ
- クオール㈱
- ㈱スギ薬局
- 総合メディカル㈱
- 日本調剤㈱
- ㈱メディカルシステムネットワーク
- ㈱マツキヨココカラ&カンパニー
- ㈱大賀薬局
- ㈱サンキュードラッグ
- ㈱新生堂薬局
- ㈱タカラ薬局
- タケシタ調剤薬局㈱
- ㈱ミズ
- ㈲野間薬局
- イオンウエルシア九州㈱
- ㈱ツルハグループドラッグ&ファーマシー
- ㈱ドラッグイレブン
- ㈱ドラッグストアモリ
- ㈱コスモス薬品
- ㈱サンドラッグ

病院
- 国立病院機構
- 地域医療機能推進機構（JCHO）
- 福岡市立病院機構
- 福岡大学病院
- 福岡大学筑紫病院
- 九州大学病院
- 久留米大学病院
- 佐賀大学医学部附属病院
- 大分大学医学部附属病院
- 長崎大学病院
- 鹿児島大学病院
- 琉球大学病院
- 産業医科大学病院
- 日本赤十字社
- 恩賜財団済生会
- 福岡徳洲会病院
- 医療法人社団高邦会
- 製鉄記念八幡病院
- 新古賀病院
- 雪の聖母会 聖マリア病院

企業
- 第一三共㈱
- エーザイ㈱
- アストラゼネカ㈱
- 日本イーライリリー㈱
- Johnson & Johnson㈱

行政
- 福岡県庁
- 佐賀県庁
- 大分県庁
- 熊本県庁
- 宮崎県庁
- 沖縄県庁
- 福岡市役所
- 北九州市役所
- 医薬品医療機器総合機構

大学院
- 福岡大学
- 九州大学
- 熊本大学
- 大阪大学

Q&A

“薬学部”の仕組みについて

Q 薬学部の修業年限について教えてください。

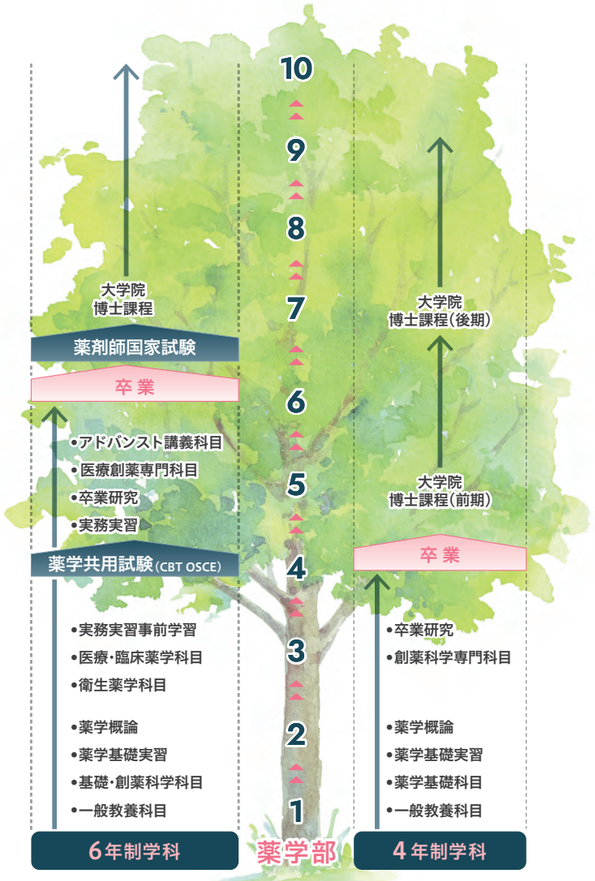
A 薬学部には、学部6年制と学部4年制の二つの修業年限の課程があります。高度化する医療や医薬分業の進展に伴い、さらに高い能力の薬剤師を養成するために2006年度から薬学教育6年制課程が始まりました。

大学卒業後にさらなる研究・教育を希望すれば大学院進学の道も存在しますが、6年制薬学部と4年制薬学部では大学院の修業年限も異なります。6年制薬学部では、学部卒業後の博士課程の標準修業年限は4年間です。一方、4年制薬学部では、学部卒業後に2年間の博士課程（前期）があり、その後3年間の博士課程（後期）が設けられています。

Q 薬学部の6年制課程と4年制課程の違いを教えてください。

A 最も顕著な違いは、薬剤師国家試験受験資格の有無です。大学卒業時に薬剤師国家試験の受験資格を得られるのは6年制課程の薬学部だけです。4年制課程の薬学部では、大学院に進学して合計6年間（あるいは9年間）の課程を修了しても、薬剤師国家試験の受験資格は得られません。

なお、薬学部の6年制課程は「薬学科」の名称のものが多く、4年制課程は「薬科学科」や「創薬科学科」などの名称が付けられています。「薬学科」以外の名称の場合、6年制課程か4年制課程か、つまり薬剤師国家試験の受験資格を得られるのか得られないのかを見誤らないように注意が必要です。また大学によっては、入学時に薬学部の6年制課程と4年制課程とを一括募集した上で、入学後に各課程（学科）に分けるところもあるので、受験時には気を付けましょう。詳細は、各大学薬学部のウェブサイト等で確認してください。ちなみに福岡大学薬学部は6年制の薬学科のみなので、入学後に学科が替わることもなく、卒業生には全員、薬剤師国家試験の受験資格が与えられます。



6年制学科		4年制学科
○	薬学共用試験	×
○	薬剤師国家試験	×

福岡大学 薬学部

福岡大学薬学部について

Q 高校で生物（物理）を勉強していなくても、大丈夫でしょうか？
高校の理科にあまり自信がなくても、授業についていけますか？

A 大きな問題ではありません。一年次前期に、高校理科と薬学部専門科目との橋渡し的な学問である「薬学物理化学入門」「薬学化学入門」「薬学生物学入門」を開講しています。また、薬学教育センター（13ページ）では物理と生物のリメディアル教育を行い、高校理科についての不安を解消してもらうための一助となっています。

高校レベルの物理・化学・生物については、入学者選抜試験合格者を対象に大学入学前教育も実施しています。

Q 薬学部では卒業までたどりつくのが大変だと聞きましたが、本当でしょうか？

A そんなことはありません。毎年多くの学生が留年することなく卒業しています（03ページ参照）。しかし、勉強をしないで卒業できると考えるのは甘いですね。薬剤師国家試験合格後には、卒業生のほとんどが薬剤師として働きます。当然のことですが、人の命に関わる業務ですから、しっかりとした知識・技能・態度を身に付けて卒業しなければなりません。そのために、薬学部では次のような関門を設けて各年次の所定科目を確実に履修し、きちんと卒業できるように指導しています。

1 各年次で所要単位を取得しなければ次の年次に進級できない。
2 同一学年に2年を超えて在学できない。

Q 6年制の薬学部を卒業したのち、研究者になれますか？

A もちろん、なれます。福岡大学は、大学院薬学研究科博士課程（修業年限4年）を設置していますので、6年制の薬学部卒業後、この大学院博士課程に進学して、これを修了すれば「博士（薬学）」の学位が与えられ、研究者への道が開かれます（17ページ参照）。他大学・他学部の大学院に進学することも可能です（14ページ参照）。

福岡大学 薬学部 Webサイト ›

薬学共用試験について

Q 「薬学共用試験」の目的は？

A 薬学共用試験センター（http://www.phcat.or.jp）が実施する試験です。6年制薬学教育では、薬剤師としての実践能力を学習するため、医療現場（薬局および病院）での実務実習が行われます。薬学共用試験は、薬剤師資格を持たない薬学生に、この実務実習を行うに足る知識・技能・態度が備わっているか否かを調べる試験です。実務実習では、実際に調剤業務や服薬指導にあたる場合がありますので、それにふさわしい能力を備えているかどうかを事前に評価し、一定のレベルに到達していることが保証される必要があります。

Q 薬学共用試験とはどのような試験ですか？

A 薬学共用試験には、コンピュータを利用して薬剤師としての基本的知識を試験するCBT（Computer Based Testing）と、調剤業務や服薬指導等の技能・態度を試験するOSCE（Objective Structured Clinical Examination）の2つの試験で構成されており、どちらも合格した学生だけが実務実習に参加できます。これらの試験では、全国の受験生への公平・公正を期すため、薬学共用試験センターから派遣されるモニター員が試験に立ち会うこととされています。さらにOSCEでは、薬局や病院勤務の薬剤師などが大学外の評価者として試験に参加します。

なお、福岡大学では、4年次の必修科目である特別講義と実務実習事前学習で薬学共用試験対策をしています。また、薬学教育センター（13ページ）のサポートによる学修支援体制も整っています。

Q 薬学共用試験を受けるのは、いつですか？

A 5年次で実務実習に参加する前に、薬学共用試験に合格しなければなりません。そのため、4年次生の後期に薬学共用試験を受けます。福岡大学の場合、CBTもOSCEも、おおむね12月～1月に本試験、2月に再試験を実施しています。

実務実習について

Q 実務実習とは何ですか？

A 6年制の薬学教育カリキュラムでは、医療人としての倫理・教養、課題発見能力・問題解決能力、そして臨床実践能力を身に付けるためのカリキュラムの充実が図られ、薬局・病院における長期実務実習が義務化されています。薬学実務実習の在り方・目標は、「薬剤師として求められる基本的な資質」の習得です。実習は、それまで薬学部で学んできた知識・技能・態度を基に臨床現場で「基本的な資質」の習得を目指し実践的な臨床対応能力を身に付ける参加・体験型学習です。

4年次に大学での実務実習事前学習を終えた後、5年次に実務実習として薬局で11週間、その後、病院で11週間、合わせて5カ月間の実習に参加します。4年次の2月下旬から5年次の2月中旬までの1年間を4期に分け、連続する2期分を使って実習します。実務実習に参加していない期間は、大学で卒業研究を遂行します。

Q 実務実習を受けるために、大学または帰省先から非常に遠い医療機関まで通わなければならないのでしょうか？

A 福岡大学には福岡大学病院と福岡大学筑紫病院と福岡大学西新病院があり、半数以上の学生がそこで病院実習を受けることになります。それ以外の学生は、自宅近くの病院で病院実習を受けることになります。また、帰省先近くの病院で病院実習を受ける学生もいます。薬局実習は大学近くの福岡市薬剤師会薬局や民間薬局あるいは自宅や帰省先にほど近い薬局で受けることになります。いずれも病院・薬局実務実習地区調整機構を通じて、できるだけ交通手段等に困らないような施設で実習を受けられるように配慮しています。

Q 実務実習を受けるために、授業料等の学費とは別に費用が徴収されるのでしょうか？

A 福岡大学薬学部では徴収しません。学費の中に含まれています。

5カ月間の実務実習の流れ

4年次2月 ～ 5年次2月

薬局実習
地域における幅広い薬剤師業務について体験し、11週間コミュニケーション能力や問題解決能力を養います。

病院実習
チーム医療などの医療現場における薬剤師の役割を体得するとともに、11週間臨床に係る実践能力を養います。

大学院 薬学研究科

■研究科長からのメッセージ

薬学研究科は、薬学専攻と健康薬科学専攻から構成され、薬学に関する学術の理論を教授・研究し、その深奥を究めて、広く医療の進展に寄与することを理念としています。

薬学専攻（博士課程）では、国民の健康増進に向けた生物学的基本原理の解明や革新的医薬品の創製・難病克服・医薬品の安全使用など、薬学に関する社会的要請に応えることのできる人材を育成します。この専攻においては、創薬科学を追究する基礎研究者を養成するのはもちろんのこと、薬学の専門家としてさまざまな観点から疾患に取り組むことのできる高度な学術的基盤を有した薬剤師の養成を行います。本専攻は医療系薬学領域での研究を中核としますが、具体的な応用や用途を直接的な目標としない研究や、常識にとらわれない研究が社会への貢献につながった事実をふまえ、医療分野にとどまらず画期的なイノベーションを創出する基礎研究にも精力的に取り組みます。基礎薬学を包含する総合的な学術としての薬学を大学院プログラムとして実施していますので、薬剤師免許非取得者も入学可能です。また、従来の博士課程における一人の指導教員あるいは一研究室による専修教育だけでなく、他の分野の教員による広い視野での多面的で幅広い教育を実施しています。6年制学部あるいは、修士課程修了の学生に広く門戸を開いています。終了後は博士（薬学）の学位を授与します。

健康薬科学専攻（修士課程）では、薬学教育の開設以来、培われてきた創薬科学に基づく教育・研究指導力を生かして、医薬品のみならず、高機能食品、香粧品、環境対策素材や臨床検査製品の開発など、研究科学分野で活躍できる研究者・技術者を養成します。また、旧4年制薬学部を卒業した薬剤師に対して高度化する医療情報・知識を総合的かつ効率的に習得する研究教育環境を提供することで、薬剤師としての資質向上を図っています。薬学部以外の学部卒業生にも広く門戸を開いています。修了後は修士（薬学）の学位を授与します。

薬学研究科長 本田 伸一郎

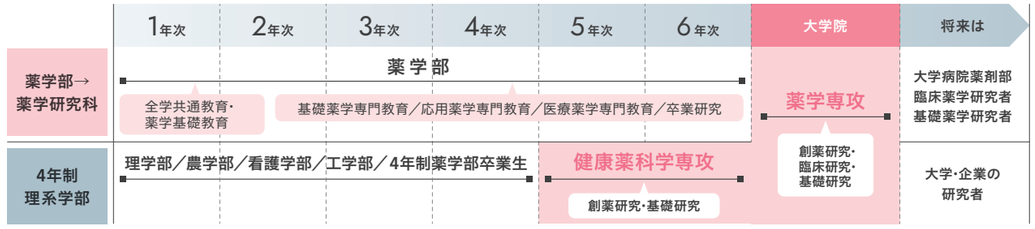
■課程の紹介

薬学専攻［博士課程］

6年制薬学部を基礎とする4年制大学院として2012年に開設されました。本専攻は、医療薬剤師プログラムおよび薬学研究者プログラムの2プログラムで構成されています。医療薬剤師プログラムは、個別化医療推進薬剤師、医療系薬学研究者、医療行政推進薬剤師、トランスレーショナルリサーチ推進研究者・技術開発者、レギュラトリーサイエンス研究者等の人材育成を目標としています。薬学研究者プログラムは、創薬研究・薬物治療の最適化などに従事する医療系薬学研究者、基礎系薬学研究者、環境衛生化学等研究者・行政担当者、製薬企業研究開発従事者等の人材育成を目指しています。

健康薬科学専攻［修士課程］

2010年度に、新たな独立専攻型大学院として開設されました。本専攻は、健康創薬科学プログラムと総合薬学プログラムの2プログラムで構成されています。健康創薬科学プログラムは、学術的な健康科学領域において活躍できる健康科学関連研究者・技術者、創薬科学関連研究者・技術者、医薬品情報担当者、健康食品・香粧品等安全管理者等の人材を輩出することを目標としています。総合薬学プログラムは、臨床現場の薬剤師が主たる対象者であり、最先端医学・薬学を体系的かつ系統的に講義および演習で修得し、課題研究活動を通じて情報収集・評価能力を培い、先導的薬剤師として地域に密着した医療貢献ができるようになることを目指しています。



薬学研究科は「薬学に関する学術の理論および応用を教授・研究し、その深奥を究めて、広く医療の進展に寄与する」という理念の下、高度な医療を担う薬剤師、薬学の将来を担う研究者および指導的な人材の育成を目的としています。

■福岡大学大学院薬学研究科出身者の活躍状況

国公私立大学病院薬剤部
- 福岡大学病院薬剤部
- 福岡大学筑紫病院薬剤部
- 山口大学医学部附属病院薬剤部
- 愛媛大学医学部附属病院薬剤部
- 九州大学病院薬剤部
- 佐賀大学医学部附属病院薬剤部
- 長崎大学病院薬剤部
- 熊本大学病院薬剤部
- 大分大学医学部附属病院薬剤部
- 宮崎大学医学部附属病院薬剤部
- 鹿児島大学病院薬剤部
- 産業医科大学病院薬剤部
- 久留米大学病院薬剤部
- その他

国公私立大学教員
- 福岡大学
- 九州大学薬学部
- 岡山大学薬学部
- 山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部
- 帝京平成大学薬学部
- 鈴鹿医療科学大学薬学部
- 摂南大学薬学部
- 武庫川女子大学薬学部
- 就実大学薬学部
- 松山大学薬学部
- 第一薬科大学薬学部
- 国際医療福祉大学福岡薬学部
- 長崎国際大学薬学部
- 崇城大学薬学部
- 九州保健福祉大学薬学部
- 長崎大学医学部
- 産業医科大学
- その他

製薬企業など、主任研究員
- 塩野義製薬
- 武田薬品工業
- ツムラ
- 大鵬薬品工業
- その他